

2023年度 大学評価統括本部 外部評価(意見交換会)レポート

2024年3月7日(木)、東洋大学白山キャンパスにおいて、「2023年度 大学評価統括本部における外部評価及び意見交換会」を実施した。

今回の意見交換会では、外部評価委員である小舘亮之氏(津田塾大学 副学長)と宍戸尚子氏(一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会 専務理事・事務局長)をお招きし、事前の書面評価結果をもとに講評及び意見交換を行い、加えて今後の大学運営にかかる意見交換も実施した。

東洋大学からは矢口悦子学長を本部長とする、大学評価統括本部員(9名)のほか、オブザーバーとして副学長(学生部長/就職・キャリア支援担当等)及び就職・キャリア支援部長の2名が参加した。

外部評価委員からは次の3点について講評がなされた。

1. 総合知教育について
2. オン・オフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化について
3. 中期計画等のPDCAサイクルについて

○はじめに

大学評価統括本部における外部評価及び意見交換会の開催にあたり、矢口本部長より、外部評価委員の両名に御礼が述べられた後、趣旨説明や進行説明がなされ意見交換に入った。

[第1部]外部評価に係る意見交換

○外部評価委員からの講評

総合知教育について

・総合知教育の方向性は時代の先を行くものであり、14学部・15研究科を有し学問領域を広くカバーしている実情を生かして、全学基盤科目、全学共通科目、専門科目の全体を見渡した上で、オンライン活用を含めて全学的な整理に取り組まれていることは評価できる。この過程では大変な作業を要するが、先端的であり大学の特色化につながるものである。

オン・オフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化について

・アフターコロナにおいて対面授業を希望する学生の存在も考えられるが、「オンライン」を効率的に取り入れて教育効果を高めようとする試みは、時代の要請に応えており、その英断も含め高く評価できる。

- ・オフキャンパスでの学びについては、ログ(履歴)を活用し学生が取り組んだプロセスを捉える仕組みがあると、学生の学習状況や学習成果の足跡などの可視化に繋がり、これに基づいた支援が実現できる可能性があるため、より推進していただきたい。/
- ・オンライン授業時のグループディスカッションにおいて、学生に積極的な参加を促す工夫としては、参加学生にファシリテーターなどの役割を与えたり、回し方を決めてあげたりすると積極的な参加が促しやすい。またグループディスカッションにあたっての決まり事などをあらかじめ参加学生と共有していくような仕掛けも有効であった。

中期計画等の PDCA サイクルについて

- ・PDCA サイクル自体を標準的なものとして構築し、それに基づき評価を行い中期計画等の効率改善につなげている点は、高く評価できる。また難しい課題に対し、きちんと数値目標を設定したうえで PDCA サイクルを機能させる試みは先駆的なケースになり得る。
- ・共通書式である中期計画進捗管理シートを策定し、大学関係者における共通理念と目標共有を試みている点は、大学組織の方向性を共有するものであり、大規模組織において、大切なことが守られていると感じる。一方で計画の管理に偏重した結果、自主的・自律的な人材が減ってしまうこともある。PDCA サイクルのDoのなかに、OODA サイクル(Observe, Orient, Decide, Act)を取り入れることで PDCA サイクルの効率化を図ることができるため、ご参考いただきたい。
- ・組織における人材の主体性を高めるためには、「何のためにそれを行うのか」という設定がブレない必要がある。加えて自律性を育てるためには心理的安全性が求められる。企業においては現場に近い人材ほどトップダウンの意向に応え、従業員が組織において活躍できていることを嬉しく思う傾向にある。大学においては学長の強いコミットメントに応えることで、構成員一人ひとりの自律性を高めることに繋がると考えられる。
- ・新しいことを始める際には大変な労力を伴うが、最終的にはその取り組みが社会から評価され大学の未来に繋がる重要なものとなる、という認知を広げることが大切である。それらが構成員にしっかり理解されるような環境づくりを地道に行っていくことが必要であると考えられる。

〔第2部〕 大学運営に係る意見交換

第2部では、今回の外部評価に限らず、外部評価委員それぞれのご見識やご経験等に基づき、以下2つのテーマを軸に広い視野で大学運営に係る意見交換を行った。なお、第2部の大学運営に係る意見交換の内容については、外部評価委員の所属機関の情報等を含むことから非公開として取り扱う。

ディスカッションテーマ

- ① 建学者の理念の共有と教育研究への浸透
- ② 「リケジョ」 学生獲得、大学における就職支援、インターンシップの推進

○おわりに

金子副本部長より、当日の意見交換から、東洋大学への指摘及び励ましの言葉に対して御礼が述べられ、津田塾大学創業者「津田梅子」・日本航空 JAL フィロソフィーが掲げるところの理念同様、東洋大学においても創業者「井上円了」の理念を教職員への浸透を図る際の参考にさせていただくとともに、それらを法人・教学・教職員で共有しながら、総合大学として文理融合を通じた社会的課題解決に貢献できるように務める旨が述べられて、閉会の挨拶とした。

以上で、2023 年度 大学評価統括本部 外部評価(意見交換会)を終えた。

以上